

倉庫精練は1914年に創業。繊維産地・北陸で100年以上にわたり、主に染色加工やその周辺技術を磨いてきた。衣料や家具、自動車用シート、そのほか生活・産業資材に至る繊維製品の染色加工を手がけ、あらゆる場面・空間を彩りて演出している。最近では親会社の丸井織物（石川県中能登町）と連携し、1枚から注文できるTシャツへのプリント加工の受託生産やスポーツウェアを保管する倉庫業も担う。

20年11月に策定した新中期経営計画「REBO RN2023」の事業戦略

削減や廃棄ロス削減、工場整理化を進めている。

倉庫精練 本社・二塚工場

モノづくり現場 (第一部)

生産革新・脱炭素社会への挑戦

ボイラ給水熱源に廃温水



三浦工業製未利用熱活用ヒートポンプ「VH-15WW」。モニターで廃温水、ボイラ給水の温度や供給量などを確認できる

LPG削減年60ト超

繊維業界でも多品種・短納期の製品が増え、人手不足もあり昼夜の作業比率も大きく違つことが、「ボイラを細かく管理して20ト産業用蒸気ボイラ1台から、3トクラスのボイラ7台に変更。これによりボイラ効率を87%から98%に引き上げた。

さらに金子課長は新たな改善に着手。染色工程の蒸気ドレーンと冷却廃水が混ざった40度C程度の廃温水を有効利用することを考え、ボイラ製造の三浦工業に相談。22年1月に同社製の未利用熱活用ヒートポンプ「VH-15WW」を導入した。これにより廃温水を熱源に活用し、ボイラ給水時に必要な60度C程度への加温までに必要な燃料を削減した。21年度のボイラ用液化石油ガス(LPG)の使用量は年間1931ト。それに対し、現在は月間のLPG削減量が5・15ト。年間換算では61・8トで3・2%の削減。さらに「酸化炭素(CO2)は年間約180トを削減する見込みだ。今後は乾燥機を扱う工程なども省エネに取り組み、「将来は工場全体のエネルギー使用量を2割削減したい」と意欲を見せる。

三浦工業の担当者は「割合では低く見えるが、使用量で見れば大幅な削減だ」と胸を張る。

(金沢支局長・尾崎康平)
(火・木曜日に掲載)

【事務所概要】▽所在地||金沢市古府町南459、076・249・3131▽主要生産品||各種化繊・合繊織物の染色加工など。各種繊維製品などの製造・販売▽年間CO2排出量||5904ト(ボイラ使用分)